

令和6年度 1年次「総合的な探究の時間」講演会

9月5(木)「総合的な探究の時間」に、1年次生を対象に7名の講師をお招きして分科会形式で講演会を開催しました。本講演会の目的は、県内の各分野で活躍されている方々の講話をお聞きし、社会的な使命や仕事上の課題を示していただきその課題解決に向けてどのような取り組みをされているのかを学ぶことです。講演会の中では、実体験をもとにした現状理解と課題の発見、そして課題解決に向けた具体的な取り組みに関して詳しいご説明をいただきました。加えて“社会”で働くことの意味や“地域”に貢献するということはどういうことなのかという視点からも様々なお話をお聞きし、それぞれ学びを得たようです。

現在1年次生は、「山形を学ぶ～持続可能な発展のために～」という大テーマのもと、県内の様々な分野の中から興味・関心に応じて設定した研究テーマについて、課題発見や課題解決を考える活動をグループで進めています。

● 講師

第1分科会	日本地下水開発株式会社	桂木 聖彦 氏
第2分科会	株式会社でん六	木村 昭広 氏
第3分科会	在宅看護専門看護師	徳田 喜恵子 氏
第4分科会	観光地域コーディネーター	小野 真哉 氏
第5分科会	東北芸術工科大学	檀上 祐樹 氏
第6分科会	山形まちづくり株式会社	下田 孝志 氏
第7分科会	まるつね果樹園	結城 こずえ 氏

● 講演会風景及び生徒の感想

□第1分科会 桂木 聖彦 氏



ただ水が好きだなという気持ちで選択したのですが、山形で世界に進出されている企業があることにとても驚きました。また、地下水の温度が15度前後で変わらないことを、知識としてでなく活用方法を考えて実践できることに、山形の企業の素晴らしさを理解していなかった自分が少し憎く感じました。とても楽しく講義を聞かせていただきました。ありがとうございました。

□第2分科会 木村 昭広 氏

改めてでん六は歴史ある会社だと実感しました。特にマメに頑張ることを目標として、人と地球の元気と健康のために、様々な可能性にチャレンジしていました。世界的な人口増加や気候変動に伴って、貧困などは深刻化しています。そんな世の中の状況に合わせて、社会課題の解決や新たな価値創出につながる商品開発を進めていました。また、ダイバーシティの推進も企業なりに工夫していると思いました。女性や外国人を積極的に受け入れるなど、多様性ある創造性の高い環境整備に努めていました。企業の利益だけでなく、地域貢献や持続可能な社会の形成などに向けての企業の役割はますます大きくなっていることを実感できました。



□第3分科会 徳田 喜恵子 氏



今の時代「自分らしく生きる」ということはとても重要視されているから、そのような中で今回の「訪問看護」や「専門看護師」についての話は良い経験になりました。また、今まで医療系と言ったら「病院の中」を1番に考えていたけれど、家で医療を行うこともあるのだと知りました。

□第4分科会 小野 真哉 氏

山形について話をするときには私はよく「何もない県だ」と表現しますが、今回の講演をお聞きして、山形について何もわかっていないことに気づきました。また、県や地域で行われている政策は、目的やターゲットが明確になっていることがよくわかりました。故郷には様々な光があり、その中でも山形は食や自然に大変恵まれているため、高校生である今、山形について学ぶことで、これからの山形の発展に貢献していきたいと思います。



□第5分科会 檀上 祐樹 氏



なぜ、人口減少はおこるのか、そもそも人口を増やすことで市や町は発展するのかなど多くのことを考えさせられました。良くしようと活動する人がいることが大事だと学んだので私も山形がもっとみんなが住みやすい街になるように考えたいと思いました。

□第6分科会 下田 孝志 氏

この講話をきいて「まちづくり」の意義が施設やイベントをつくることではなく、自分の関わっている地域の魅力や価値を高めようとするすべての活動や取り組みだということだと知りました。中心市街地の活性化をするために、七日町が動いていることが分かりました。これからの街を作るときに多様性や柔軟性が必要で、街への思いを深めていくことも大切だと思いました。もし大学進学などで他県に行っても、また山形に帰って来てもらえるような仕組みやまちづくりが必要だとわかりました。



□第7分科会 結城 こずえ 氏

私は農業に関してあまりいいイメージがなく、マイナスなイメージが大きかったけど、「農業は人のしあわせを作ることができる」ということを聞き、プラスのイメージが大きくなりました。



田んぼや森林はきれいな景色を作ったり、生き物の住処になったりとても大切なものなのだと気づきました。また、農業は課題が沢山あるけど今だからこそできる情報発信の方法でもっともっと若い人に農業のプラスのイメージを伝えていけるといいなと思いました。私はさくらんぼが大好きなので気候変動によってあまり食べられなかったことが悲しく思っていました。ですが、農家の人達はこういった課題を工夫しながら頑張っていることに感動しました。